



2021年12月期 第1四半期決算説明資料

Precision for a changing world

精密加工技術で社会環境の変化に対応していきます

2021年5月14日
株式会社ツバキ・ナカシマ
(東証一部 6464)



FY2021 1Q 業績ハイライト

マクロ経済が成長や足踏み様々な中、売上・利益とも順調に回復

売上

- 売上収益は、前年同期及び前四半期を上回る 169 億円
- 海外のお客様、アジア市場およびセラミック販売はいずれも前年同期を大幅に上回った

利益

- 営業利益も前年同期及び前四半期を上回る 17.9 億円
- 売上増に加え、定着したコスト改善が利益の下支えに貢献

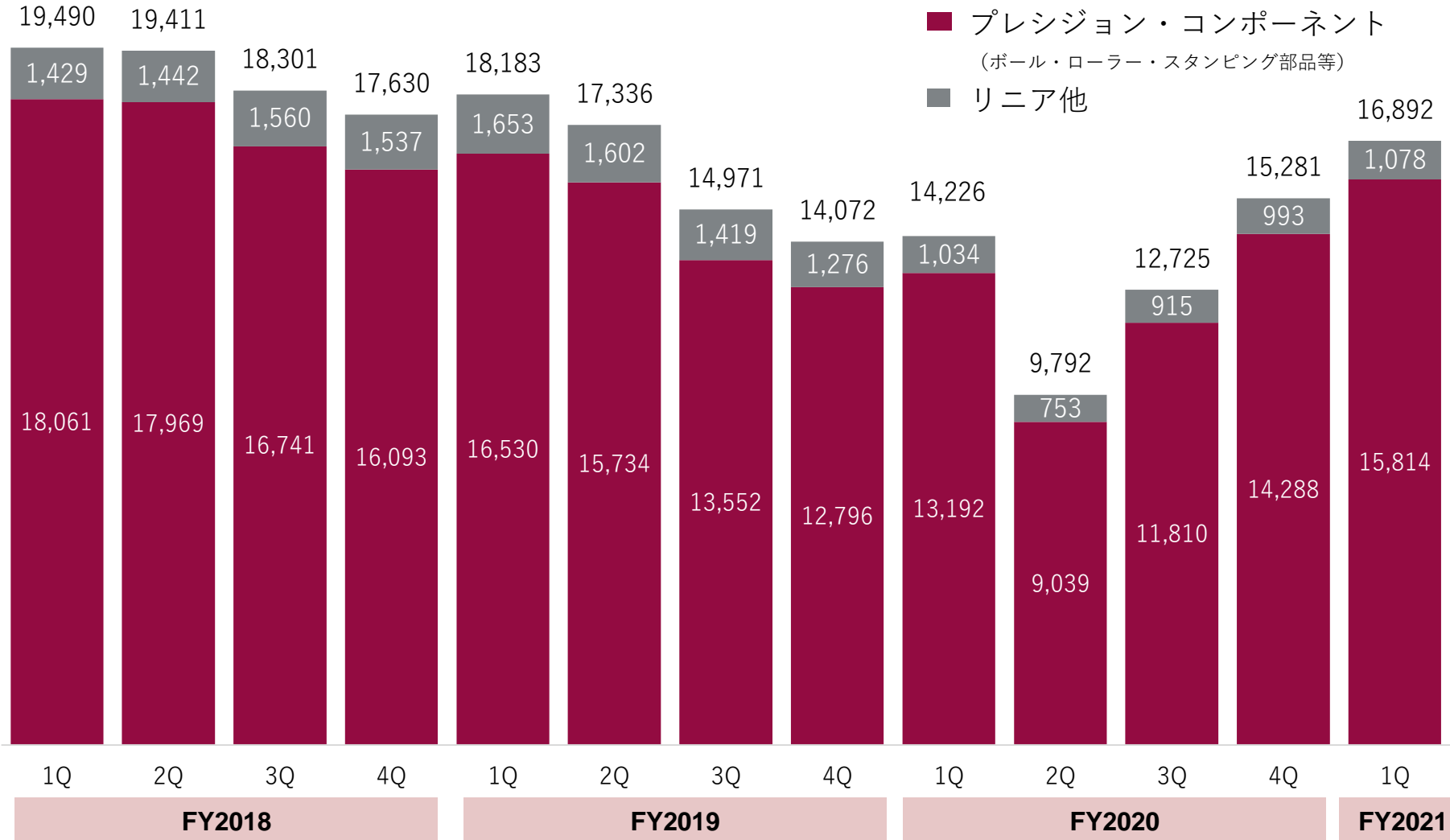
配当

- 年間配当額は、2月のガイダンス通り 46 円/株の予定



四半期 連結売上収益

新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念される中、順調に回復。プレジジョン・コンポーネントは、米中貿易摩擦が始まる前の2019年2Qを上回る売上に回復 (百万円)





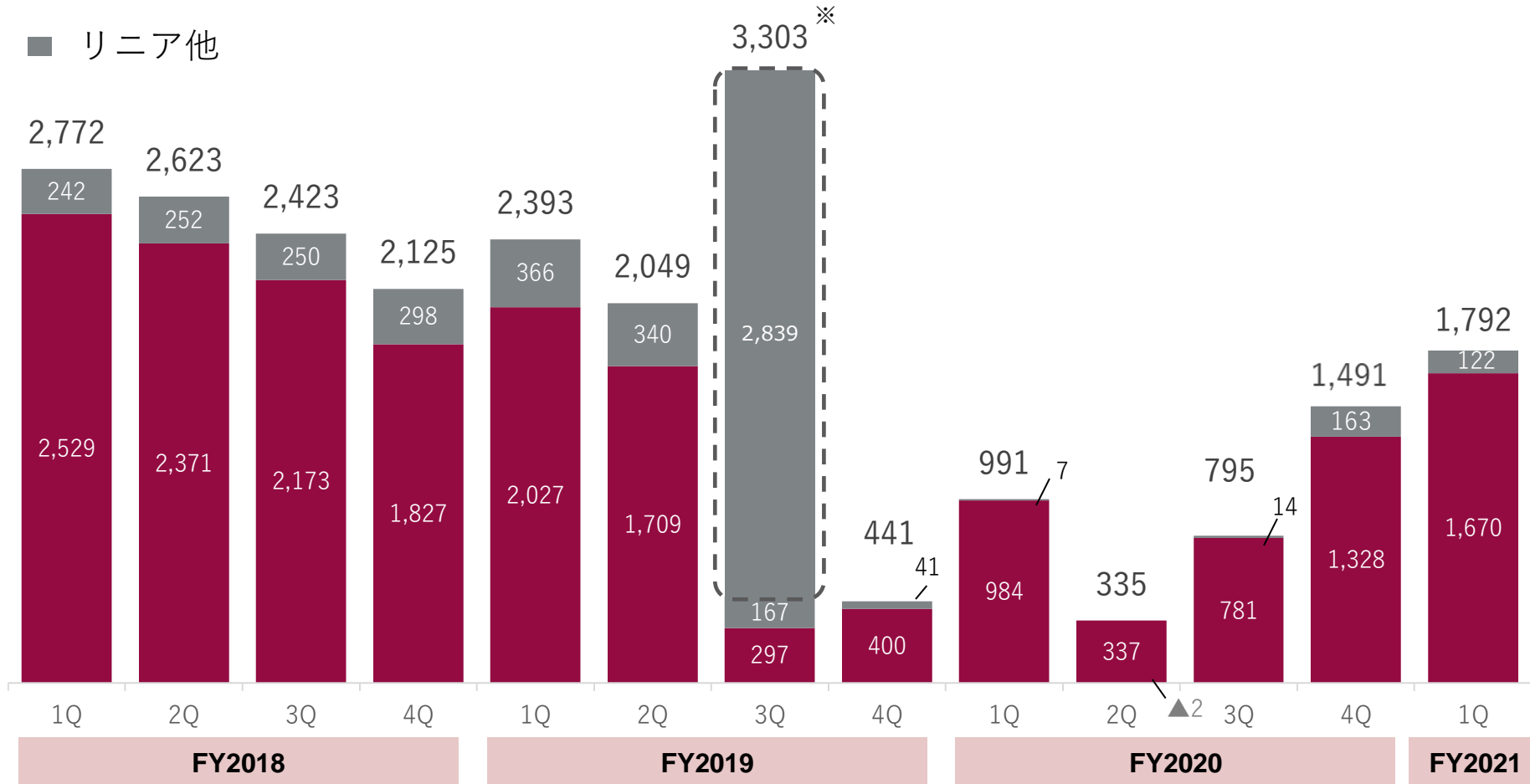
四半期 連結営業利益

3四半期連続で増加。前四半期比20.1%の伸び

(百万円)

■ プレシジョン・コンポーネント

■ リニア他



※ 資産売却益（2,839百万円）を含む



FY2021 1Q連結業績（前年同期比）

為替影響を除いた売上収益は前年同期比16.1%増、営業利益は同78.7%増
営業利益率は10%台に

(百万円)

	FY2020 1Q	FY2021 1Q			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
売上	14,226	16,892	376	2,290	16.1%
営業利益	991	1,792	21	780	78.7%
対売上(%)	7.0%	10.6%	—	—	—
EBITDA	1,856	2,620	44	720	38.8%
税前利益	935	1,772	158	679	72.7%
当期利益	691	1,327	148	488	70.7%

※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く

FY2021 1Q セグメント・地域別売上（前年同期比）



全てのセグメントで前年同期比プラスに転換

(百万円)

	FY2020 1Q	FY2021 1Q			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
グループ連結	14,226	16,892	376	2,290	16.1%
プレシジョン・コンポー ネントセグメント※2	13,192	15,814	370	2,252	17.1%
日本	2,510	3,109	—	599	23.9%
北米	3,235	3,295	▲95	155	4.8%
欧州	5,029	5,961	320	612	12.2%
アジア(中国他)	2,418	3,451	145	888	36.7%
リニア他セグメント	1,034	1,078	6	38	3.7%

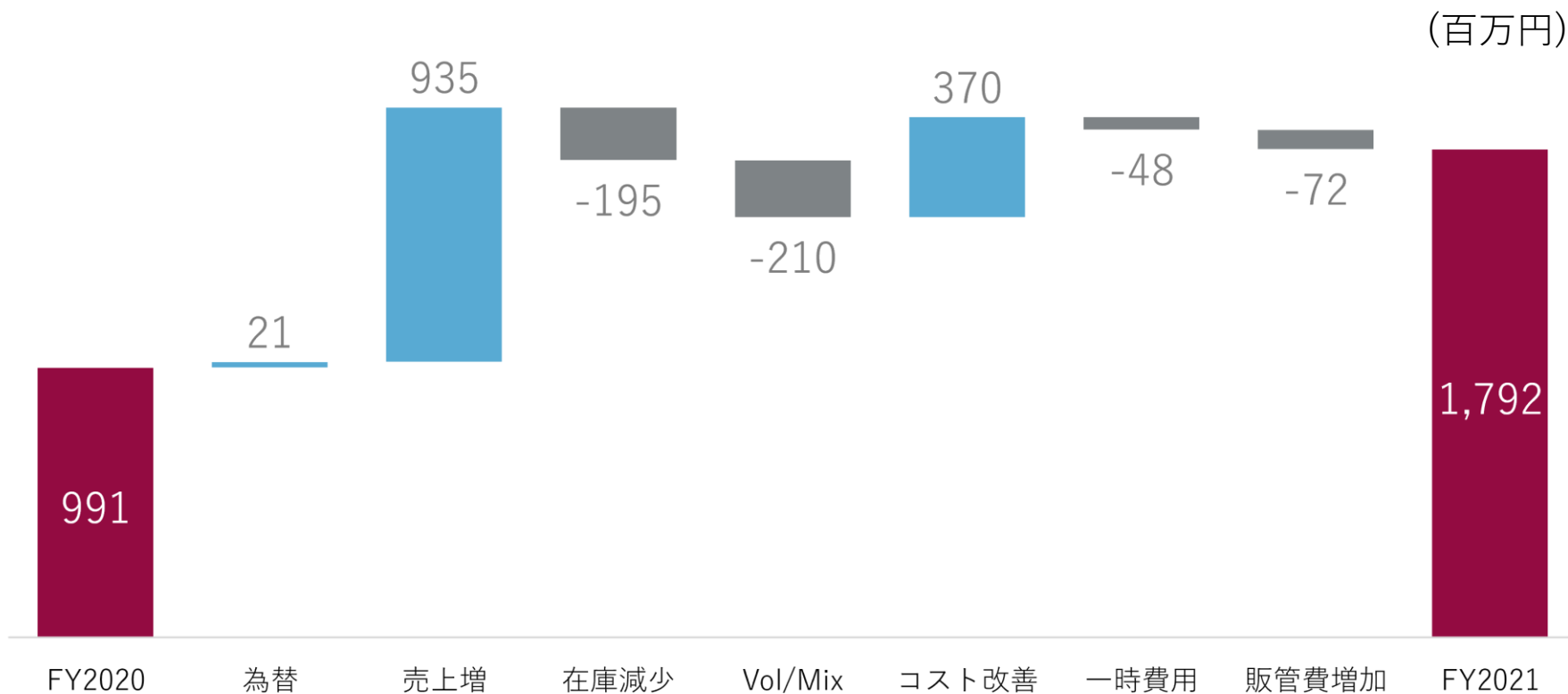
※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く

※2 セグメント間収益を除く

FY2021 1Q 営業利益 増減要因 (前年同期比)



売上増とコスト改善が寄与し、対前年同期比営業利益は80.8%増の1,792百万円





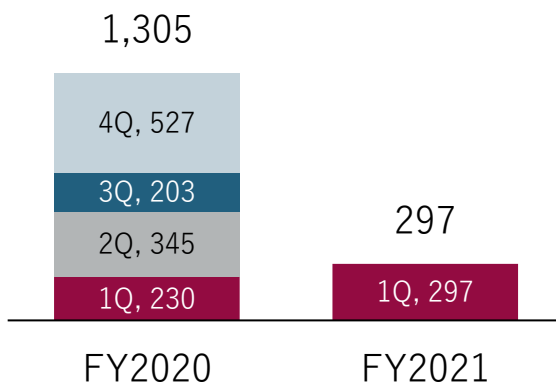
棚卸資産回転月数(月)

売上増に伴い回転月数が改善



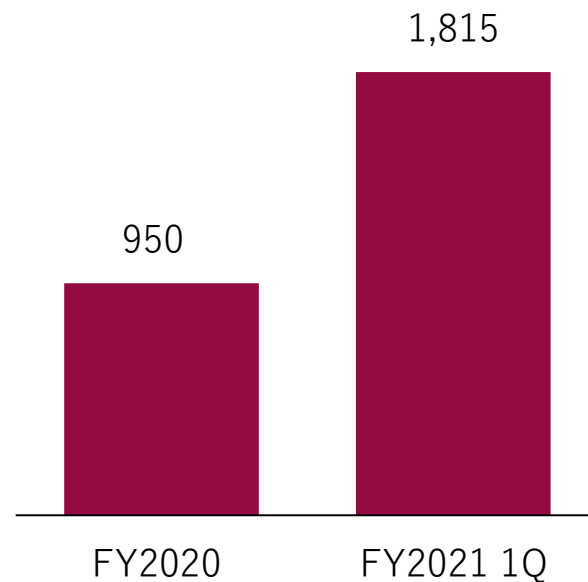
設備投資額(百万円)

1Qはメンテ中心の設備投資



調整後フリーキャッシュフロー(百万円)

1Qで前年度累計の2倍となるFCFを創出し大幅に改善



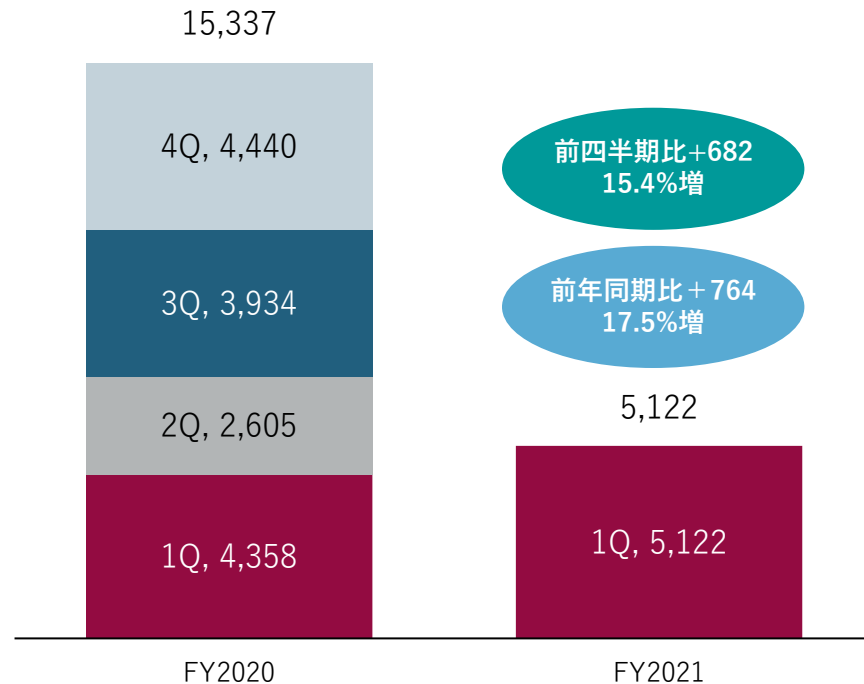


FY2021 1Q 販売戦略の進捗

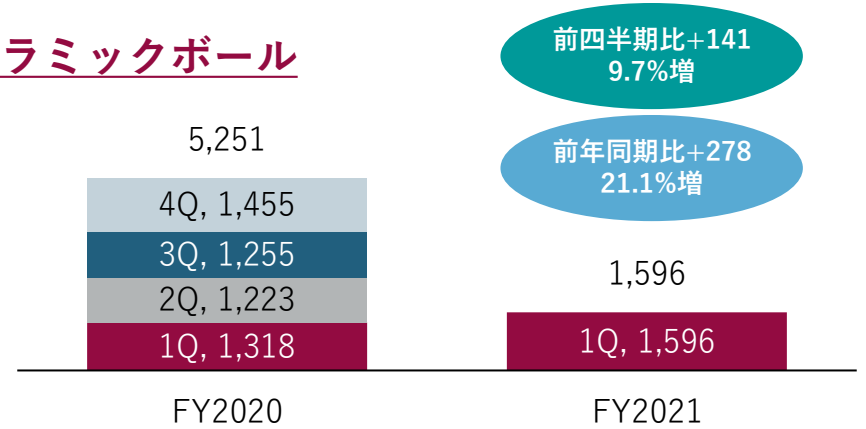
全てのセグメントで、前年同期に対し大きく増加
セラミックボールはEV向けが順調に増加

(百万円)

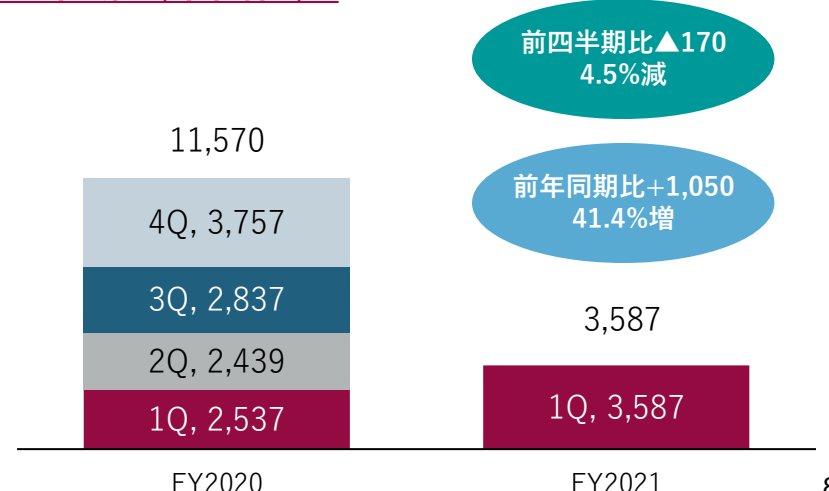
海外のお客様



セラミックボール



アジア市場 (中国他)



免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいません。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。